

第3学年*組 道徳学習指導案

指導者 上野 大輔

R2研修センター長期研修

1 主題名 よりよい社会の実現 内容項目C-(12) 社会参画, 公共の精神

2 教材名 「花火大会の翌朝に」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本教材は、中学校学習指導要領の内容項目C-(12)「社会参画, 公共の精神」を受けて設定したものである。ここでは、集団や社会の一員として、よりよい社会を実現していくのは自分たち自身であるということを理解し、よりよい社会の実現のために積極的に関わっていかうとする意欲や態度を育てていくことをねらいとしている。中学校の段階では、よりよい社会を協力して築こうとする意識が高まる一方で、他者に対する配慮を欠き、公の場においても自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。そこで、自分も集団や社会の一員であるという自覚を深め、主体的に社会に参画しようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、進路に関することや部活動など、自分の目標に向けて全力で取り組むことができる生徒が多い。一方、地域のことやボランティア活動への関心は低く、地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えている生徒は少ない。つまり、自分事だと感じにくいことに対して、主体的に取り組むことが難しい現状である。実際の学校生活でも、生徒会主催のボランティア活動に参加する生徒や、行事の成功のために進んで仕事を引き受ける生徒が少なかった。そこで、自分たちも地域や社会の一員であるという自覚を高め、自分たちの力でよりよい社会を実現しようとする意欲や態度を育てる必要があると考える。

(3) 教材について 「花火大会の翌朝に」(東京学芸大学 総合的道徳教育プログラム)

本教材は、主人公の誠が、花火大会翌朝の清掃ボランティアに参加することで、社会参画について考えを深めるという読み物教材である。自分の達成感のために参加した誠は、ゴミの量の少なさから作業にやりがいを感じられずにいたが、市役所の人の話を聞き、実は参加すること自体が、地域や社会をよりよくするための第一歩であったのだと気付く。ゴミを減らす努力をした地域住民一人一人の意識があったからこそ、ゴミが少ない花火大会となったことに気付かせ、よりよい社会の実現に向けて自分には何ができるのか考えさせる教材である。

(4) 主題に迫る手立て

指導に当たり、導入では、主題に関わる資料を用いて、社会の一員としての自覚が低いことへの問題意識をもって学習に臨めるようにする。展開では、主人公が清掃活動に参加した理由が自己中心的な考えと、市役所の人と話した本来のボランティア活動の意義と対比させることで公共の精神について考えられるようにする。また、自分自身の問題として考えられるように、役割演技を取り入れる。その後グループで、演じられた言動の背景にある気持ちや考えの根拠を話し合うことで、多様な考え方や感じ方に触れられるようにする。中心発問では、花火大会を成功させたのが、誰のどんな意識と行動なのかを問うことで、花火大会に来た人たちが社会の一員としてできることを考え、ゴミを持ち帰るという行動に至ったことに気付かせたい。さらに、よりよい社会の実現に向けて、一人一人の意識と行動を、変えていくことが大切なのだという考えを自己の生活と結びつけて深めさせたい。終末では、教材を通して考えたことを、自己の生活に結びつけて考えられるように、身近な具体的な実践例をあげ実践への意欲を高めるとともに、社会の一員としての自覚を深め、よりよい社会の実現に向けて大切なことを考えられるようにする。

4 本時の指導

(1) ねらい

地域の行事に参加した一人一人の意識や行動を考える活動を通して、社会の一員であるという自覚を深め、よりよい社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 準備・資料

・読み物教材「花火大会の翌朝に」 ・ワークシート ・掲示資料 ・モニター

(3) 展開

	主な活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価
導入	1 主題に関わる資料を提示し、学習課題を把握する。 ○ 昨年のハロウィーンの様子と茨城県の交通マナーに関する調査結果から考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社会をよりよくするのに大切なことは何だろうか</div>	<ul style="list-style-type: none">・周囲を気にしていない。・自分が楽しければいい。・交通マナーが良くなっているとは思えない。	<ul style="list-style-type: none">・身近なニュースや出来事を取り上げて、本主題に対する問題意識をもてるようにする。・茨城県で交通事故が年々減ってきていることに着目することで、一人一人の意識の大切さに気付けるようにする。
展開	2 教材「花火大会の翌朝に」を読んで内容について話し合う。 ○ 誠は最初、何のために清掃ボランティアに参加していたのだろうか。 (PW→ペア→全体) ○ 誠が来年、後輩にこの清掃ボランティアを誘うとしたら何と言うか考え、役割演技を行う。 (PW→ペア 役割演技→全体 話し合い) ◎ 花火大会を成功させたのは誰のどんな意識と行動からだろうか。 (PW→GW→全体)	<ul style="list-style-type: none">・ジュースのため。・自分の達成感のため。・自分の立場を守るため。 ・僕たちが参加することでゴミを捨てないように意識する人が増えるから、参加するといいいよ。・会場をきれいにして、自分の地元の花火大会を成功させよう。 ・花火大会に参加したみんなが、ゴミを散らかしてはいけないという意識をもつことで、ゴミを持ち帰るという行動につながったから。	<ul style="list-style-type: none">・プレゼンテーションソフトを使って、あらすじをわかりやすく確認できるようにする。・誠の自己中心的な参加の理由と、市役所の人が話したボランティアの本来の意義とを対比させて、公共の精神について考えられるようにする。・自分自身の問題として深く関わって考えられるようにするために役割演技を取り入れる。・役割演技で自分の考えを表現するのが難しい生徒には、生徒との対話からボランティアの意義につながるキーワードを見つけ、アドバイスをすることで具体的に表現できるようにする。・それぞれのセリフの理由をグループで交流して、多様な考え方や感じ方に触れる。・実際にゴミを持ち帰ったのはどんな気持ちからか問うことで、花火大会に参加した一人一人が、自分ができることを行ったことに気付けるようにする。
終末	3 授業の振り返りを行う。 ○社会をよりよくするために自分が意識して行っていきたいことは何だろうか。 (PW→全体)	<ul style="list-style-type: none">・社会の一員としての自覚をもつ。・特別なことをしなくても、自分ができることを一つ一つやっていく。	<ul style="list-style-type: none">・社会をよりよくするための意識があればすぐにできると、継続的に意識しなければ良くならない資料を示すことで道徳的価値を実現することのよさや難しさを見いだせるようにする。◎よりよい社会を実現するためにどうすればよいか考えている。(ワークシート、発表)